

夢・きらめき／ 豊 中 っ 子



高い目標を掲げ

上へ上へ

写真提供：一般社団法人ストリートダンス協会

大商学園高校 ダンス部

平成31年（2019）に完成した新校舎1階にある一面鏡張りのダンス室を訪れると「こんにちは」と、はつらつとしたあいさつで出迎えてくれたのは大商学園高校ダンス部の皆さん。

同部は今年8月に開催された「第13回日本高校ダンス部選手権大会 夏の公式全国大会」に出場。チーム人数が2人〜12人のスモールクラスで、優秀賞を受賞しました。

テーマとしたのは「ジャパニーズ・トラディション」。ツルの柄をあしらった和風の衣装をまとい、キレのある動きに、場面に応じて豊かな表情を治えたパフォーマンスを披露。練習以上のものが出せ、自信を持って結果発表を待ちました。それでも、学校名が呼び上げられた時は、部員たちの喜びと興奮もひとしおで、皆で思わず声を上げたそうです。

9月には、大会当日の映像を全校生徒で鑑賞。「いつもと違った表情でびっくりしたよ」「テレビでも取り上げられて何度も見たよ。衣装を振り回すところが

かっこよかったね」などと声を掛けられたり、休み時間に振りをまねて踊る生徒を見かけたりと、多くの人に自分たちの結果を喜んでもらえていることを実感したそうです。

部員は3年生4人、2年生8人、1年生7人の計19人。小学生のころからダンススクールに通う経験者もいますが、多くは高校入学後にダンスを始めた初心者です。振り付けをお願いしているプロダンサーからの指導は週に一度で、普段はいくつかのグループに分かれそれぞれの課題に取り組んだり、できる人が指導をしたりと自分たちで練習内容を決めています。力を入れているのは、体の軸を作る基礎練習。腰を深く落とすことを意識したアップ・ダウンや筋力トレーニングなどを毎回欠かさず行います。

少人数でのダンスは、広がる形をとった時に個人のあらが目立つので、本番に向けた練習では体の隅々まで意識し丁寧に動きを確認します。「厳しい言い方をする、萎縮してしまい動

Daily practice



Basic exercise



@ Daisho Gakuen High School



初心者が多くて
難しく感じる場所は？



A 本番の舞台の怖さを知らないため、緊張感が足りないことに立ちを覚えることもありました。でも、気負わずにいたことがのびのびとした踊りにつながっていて、悪いことばかりでもないとも感じています。

3年 刈谷早希さん

ダンスの楽しいところは？

A 合わせる音楽によっていくらでも踊りが作れたり、ジャンルにより振りや体の使い方も違ってきたり、飽きることなく続けられます。終わりが無いところが楽しくやりがいを感じます。

2年 米谷茉耶さん



きが悪くなってしまう。教える難しさを感じます」という3年生。相手の気持ちを考えながら指導することを心掛けています。うです。それに対して、2年生は「学年の垣根を感じない、仲のいいクラブ。練習で厳しさを感ずることがあっても、熱心に引っ張り上げようとしてくれる愛憎を感じるの、付いていこうと頑張れます」と、お互いの信頼関係は確かなもののよ

うです。ダンス室ができるまでは、鏡を運び出し屋外の通路で練習していた同部。部長（取材当時）の刈谷早希さん（3年）は「今は練習環境に恵まれているので、常に目標を高く、毎年全国大会に進めるクラブであってほしい」と語ります。先輩の思いをつなぎ、部員たちがこれからのような輝きをみせてくれるのが楽しみです。